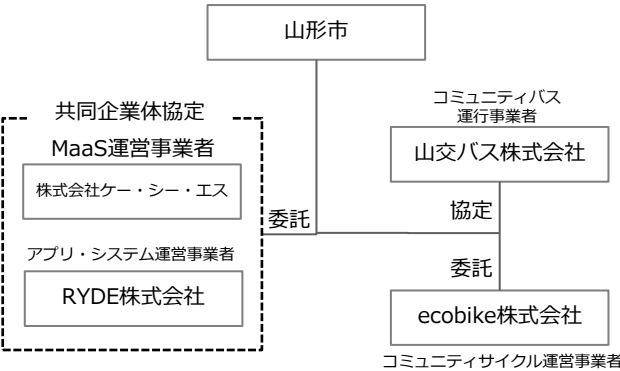


課題	令和3年3月の類似圏域との比較分析調査結果から、仙山生活圏は他の県庁所在都市同士が隣接する都市圏と比較して、地元への定着率が低い状況であり、他の都市圏では交通利便性の高さが活発な交流を促進し、圏域外への人口流出を抑制しているという分析結果が示されている。この結果を踏まえ、仙山圏を魅力ある圏域とするために、今後、交流促進を図る取組みを検討する必要がある。		
プロジェクト概要	[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)] 「やまがたMaaS」と「仙台MaaS」の双方のMaaSアプリを用いて、都市間移動に活用できる新たなデジタルチケットを販売するとともに、利用者が既存チケットと組み合わせることにより都市間交通と都市内交通をシームレスに選択できる環境を構築する。例えば両市のイベントに合わせた交通手段＋イベントチケットのデジタルチケットを造成し、更なる交流人口拡大、将来的な関係人口増加を目指す。		
	[モビリティ・データの取得と活用] MaaS利用者の属性(性別・世代・居住地)やMaaSアプリ利用時の位置情報が取得できるため、ニーズに合わせた新たなデジタルチケットの構築や、観光の視点から、公共交通網で移動可能な個人型や体験学習型のモデルコースを作成し、移動手段も含め観光地の魅力を高めるような、交流促進を図る取組みの検討に活用する。		
	[エンドコンテンツとの連携] 仙台市との観光、飲食、交通カテゴリのデジタルマップ連携		
効果	- 市外からの来訪者を公共交通の利用に結びつけ、中心市街地や観光地での滞在時間を延ばすことで魅力ある地域産業における消費額の増加 - 地域経済活性化による雇用促進や住みやすく魅力ある市へ定住を促進		
事業の新規性	仙台市との都市間連携 山形市「観光・文化」、仙台市「経済・ビジネス」の各分野でお互いの強みを活用し、仙台市が提供している「仙台MaaS」と連携する。また、連携を進める中で、データ基盤の共有を検討し、相互のモビリティサービスを提供できる環境の整備を目指す。当初は共通イベントチケットを造成しそれぞれのサイトで取扱い、お互いのサイトで販売しているローカルチケットについては相互リンクで紹介し利用者拡大を促す。将来的に相互のサイトで販売できるようAPI連携など実現性の協議を開始する。		
事業エリア/交通事業		事業エリア:仙山都市圏(山形市、仙台市) バス:山交バス、市営コミュニティバス タクシー:山形地区ハイヤー協議会加盟会社 コミュニティサイクル:ecobike	
MaaSアプリ等		RYDE PASS	
データの活用等		- データの取得方法:バス、交通系ICカード、Tableau - データの活用方法:路線バスの再編の検討、再編の検証	
座組		スケジュール	
		4月～5月 連携体制・連携事業検討 5月 やまがたMaaSコンソーシアム 6月～9月 連携事業実施 10月 やまがたMaaSコンソーシアム 11月～12月 連携事業実施 次年度連携事業検討 1月 やまがたMaaSコンソーシアム 2月～3月 効果検証	